



TITLE:

花山だより(四月)

AUTHOR(S):

星見山人

CITATION:

星見山人. 花山だより(四月). 天界 1935, 15(170): 309-309

ISSUE DATE:

1935-05-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167033>

RIGHT:

花 山 だ よ り (四月)

櫻咲き誇る京の町に、蘭の國の天子様がおいでになりました。此の日15日には臺員一同太陽館上に登り、大國旗を掲げて、山科附近御通過を遙かに奉迎する筈でありましたが、生憎の雨で濃霧に包まれ、御召列車を奉拜する事は出来ませんでした。尚ほそれより前、皇帝陛下御警衛本部より正確な時刻を問合せて來ました。皇帝陛下の御旅館は、花山山の嶺續き將軍塚の麓で吾々が毎日花山バスで通る蹴上の都ホテルでありました。

延び延びになつてゐた官舎の復舊工事も、5日に疊を入れ、9日には窓ガラスも入れ終つて、見違へる程立派になりました。そしてペンキが乾くか乾かない12日に、待ち切れなくて食堂の移轉をしました。九月以來半歳餘り太陽館の一隅を借りて、太陽觀測の御邪魔にもなり、炊事にも窮屈だつた不便な生活も、やつと此の日で終つたわけです。之の移轉は臺員一同手傳つたので忽ちに運んで了ひました。殊に山本先生が飯櫃等を抱へて運んでゐられる所はカメラに撮つて皆様に御目にかければよかつたと、後で大いに残念がつた次第です。別館のドームも27—29日の間にすっかり塗り替へられ綺麗になりました。

20日は風害後最初の夜間公開でありました。午後は協會の例會があり、19時から金星、火星、月等の觀望があり、久しぶりだつた爲めか相當賑やかでした。21日に臺灣に大地震災起り、臺中にある25厘米鏡の安否が氣遣はれるので、山本臺長は24日夜發にて出張せられました。又24日から公文理學士が花山の主事になりました。今月新たにメンバ1に加はつたのは、荒木、高倉兩理學士です。荒木九皐理學士は「新らたに」ではなくて、「再び」山に來られたので皆様も御馴染の事と思ひます。扨て然し困つた事に、倉敷の荒木さんも今は山にゐますし、教室に荒木先生が、事務室にも荒木さんがゐられ、都合4人の荒木さんが居られて、時々話が混線して了ひます。山のオバサンが又交代して、9日から太田君一家が山に移り、官舎の炊事をやつて呉れる事になり、又、13日から龜島君が宿直する事になりました。

5日に水澤の木村博士が午前中、東京の萩原博士が午後來臺參觀せられ、6日に東大の小穴講師が參觀されました。(星見山人)